

日本気象学会 2010年度春季大会

会期：2010年5月23日（日）～26日（水）

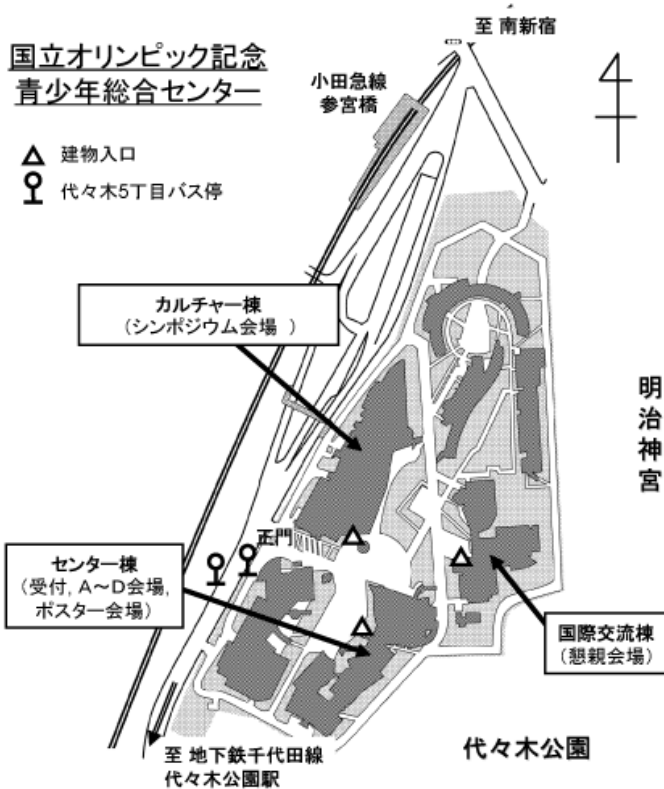
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3番1号）

大会実行委員会担当機関：気象庁

大会委員長：羽鳥光彦（気象庁予報部）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（405会議室：センター棟 4F）
TEL 080-3396-6719（大会期間中のみ有効）
※大会参加者への伝言は、受付付近の掲示板に掲示します。
取り次ぎはいたしませんのでご承知お願いします。

会場案内図



[交通手段]

○小田急線:

「参宮橋」駅下車 徒歩7分

○地下鉄千代田線:

「代々木公園」駅下車 徒歩10分

○京王バス:

1. 新宿駅西口16番より「代々木5丁目」下車
2. 渋谷駅西口14番より「代々木5丁目」下車

大会行事予定

A会場 : セミナーホール417 (センター棟 4F) , 総会・記念講演・シンポジウム : 大ホール (カルチャー棟)
 ただし, 5月26日 (水) 午後は309会議室
 (センター棟 3F)
 B会場 : 101会議室 (センター棟 1F) 受付 : 416会議室 (センター棟 4F)
 C会場 : 102会議室 (センター棟 1F) 大会事務局 : 405会議室 (センター棟 4F)
 D会場 : 501会議室 (センター棟 5F) 懇親会 : レセプションルーム (国際交流棟)
 ポスター会場 : 401・402会議室 (センター棟 4F)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 23日 (日)	10:00～ 11:30	大気海洋相互作用 (6, A101～A106)	気候システムI (6, B101～B106)	気象予報 (6, C101～C106)	観測手法 (5, D101～D105)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (33, P101～P133)			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会 「防災情報の活かし方 を考える」	専門分科会 (9, B151～B159) 「気象・気候に対する 山岳の影響」	専門分科会 (7, C151～C157) 「様々な時間スケール でのデータ同化とア ンサンブル予測」	熱帯大気 (16, D151～D166)
5月 24日 (月)	09:30～ 11:30	降水システムI (9, A201～A209)	気候システムII (9, B201～B209)	台風 (9, C201～C209)	物質循環I (9, D201～D209)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (33, P201～P233)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:30	学会賞・藤原賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 25日 (火)	09:30～ 11:30	降水システムII (9, A301～A309)	気候システムIII (9, B301～B309)	雲放射 (6, C301～C306)	物質循環II (9, D301～D309)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (33, P301～P333)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「災害軽減に向けたシビア現象予測の将来」			
5月 26日 (水)	09:30～ 11:30	降水システムIII (9, A401～A409)	気候システムIV (9, B401～B409)	大気境界層I (8, C401～C408)	大気力学 (8, D401～D408)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (33, P401～P433)			
	13:30～ 15:00	降水システムIV (5, A451～A455)	気候システムV (6, B451～B456)	大気境界層II (6, C451～C456)	中層大気 (5, D451～D455)

発表件数 : 312件 (専門分科会16, 口頭発表164, ポスター132)

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には, 日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません. ただし著作者自身による利用の場合は, 利用許諾の申請は不要です.

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは, 〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail: kouenkikaku2010s@metsoc.jp) まで.

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は13分（講演10分・質疑3分）です。
- ・ 専門分科会の各講演の持ち時間は分科会毎に決められています。詳細は各分科会のプログラムをご覧ください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターとOHPが使用できます。
- ・ 止むを得ない事情で使用機器が講演申込時に予め届け出ていた機器と異なる場合は、セッション開始前までに座長と会場係にその旨を申し出て下さい。
- ・ PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することが

あります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦150 cm×横180 cmとなっています。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋏をお使い下さい。テープは使用することができません。必要な画鋏は講演者自身でご用意下さい。
- ・ ポスターの掲示可能時間は大会第1～3日目は9:30-16:30、大会第4日目は9:30-15:00となっています。会場の都合上時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

シンポジウム「災害軽減に向けたシビア現象予測の将来」

日時：大会第3日（5月25日）13:30～17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

司会：隈 健一（気象庁予報部数値予報課）

趣旨：

近年、大雨や竜巻等の突風による被害が相次いでおり、大雨等の災害を軽減するための確な情報の提供が必要である。このため、気象庁では、平成22年の出水期から、市町村を対象とする注警報の発表、突風、雷、強雨に関する業務の充実を図ることとしている。これらの災害は、積乱雲がマルチセルまたはスーパーセルとなった場合に発生することが多いが、リードタイムを確保した予測精度にはまだまだ大きな課題がある。今後、予測精度の向上に向けて気象学の英知を集めて取り組む一方、現状の予測技術の範囲内で災害の軽減に効果的な情報のあり方についても検討していく必要がある。今回のシンポジウムでは、シビア現象予測に関する現状の取り組み状況の報告、予測技術の今後の展開、情報の利用面からの予測情報のあり方について講演、討論を行うこととする。

基調講演：

- 1) 「豪雨等予測の現状と取り組み」
永田 雅（気象庁予報部業務課）
- 2) 「シビア現象の理解・予測にむけた課題と期待」
新野 宏（東京大学大気海洋研究所）
- 3) 「豪雨災害軽減にむけた予測情報」
中北 英一（京都大学防災研究所）

パネル討論・総合討論

総 会

日時：大会第2日（5月24日）13:30～15:20

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

議事次第

- | | |
|---|------------------------|
| 1. 開会 | (3) 2009年度収支決算報告 |
| 2. 議長選出 | (4) 2009年度監査報告 |
| 3. 理事長挨拶 | (5) 日本気象学会第36期役員選任について |
| 4. 2010年度学会賞授与 | (6) 2010年度事業計画案 |
| 5. 2010年度藤原賞授与 | (7) 2010年度収支予算案 |
| 6. 議事 | (8) その他 |
| (1) 支部会計の本部会計への統合に伴う2008年度収支決算報告の修正について | 7. 議長解任 |
| (2) 2009年度事業報告 | 8. 閉会 |

専門分科会の概要紹介

2010年度春季大会では下記の通り、2件の専門分科会が開かれます。

気象・気候に対する山岳の影響

日時：大会第1日（5月23日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：山岳域は、空間スケールや広域循環場などに応じ、気象に対して様々な影響を及ぼす。従来から、これらの影響はメソ・総観規模・半球規模といったスケールに区分されて議論されがちである。しかし、熱力学的作用はスケール間で連動し、発現する時間スケールも準定常的な気候形成から突発的現象まで様々である。本セッションでは、筑波山スケールからチベット高原スケールまで、様々な地域における様々な空間スケールで山岳の影響を受けた気象・気候に関する研究成果を持ち寄り、空間・時間を横断するメカニズムの認識や今後の気候変化に対する山岳域の果たす役割を議論する事を目的とする。

コンビーナー：上野健一（筑波大学生命環境科学研究科）、里村雄彦（京都大学大学院理学研究科）、余 偉明（東北大学大学院理学研究科）

様々な時間スケールでのデータ同化とアンサンブル予測

日時：大会第1日（5月23日）13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：近年、情報科学やコンピューター技術の急速な発展を背景として、より精度の高い初期値を作成するデータ同化技術や、初期値や数値モデルに含まれる不確実性を考慮するアンサンブル技術の開発が盛んに行われている。これらの技術は、現業数値予報センターにおけるメソ短期予報、全球中期予報、季節予報のみならず、地球温暖化予測研究においても欠かすことのできない技術となりつつある。本分科会では、招待講演者にデータ同化技術とアンサンブル技術に関連する話題を提供してもらい、数日、週間から季節、地球温暖化に渡る幅広い時間スケールの予報/予測を横断的に見渡し、様々な時間スケールでの予測に必要な知見や技術は何かを考える機会としたい。

コンビーナー：松枝未遠（地球科学技術総合推進機構/気象庁気象研究所）、中澤哲夫（気象庁気象研究所）、榎本 剛（海洋研究開発機構地球シミュレータセンター）、経田正幸（気象庁予報部数値予報課）、新保明彦（気象庁地球環境・海洋部気候情報課）

公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は無料・事前の申込も不要です。

日時：2010年5月23日（日）（大会第1日）13:30～17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

セミナーホール417（センター棟4F）（大会A会場）

テーマ：「防災情報の活かし方を考える」

主催：社団法人 日本気象学会

教育と普及委員会・気象災害委員会

後援：一般社団法人 日本気象予報士会

趣旨：日本気象学会2010年度春季大会の開催に合わせて、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果や気象情報の利用についてわかりやすく解説することを目的

とした公開気象講演会を開催します。今回は、防災情報が一般市民に届く間に介在する様々な立場の方から講演していただきます。主に気象庁から出される防災情報は、報道や地方自治体による情報伝達を経て、防災関係機関の活動や住民の避難行動等に結び付くことが求められています。そこで、今回の講演会では、防災の第一線で活躍されている方々から、防災気象情報の発信元としての気象庁、報道、地方自治体、災害教育・評価の四者の視点から、一般の方々にも分かりやすい内容でお話していただきます。また、初の試みとして、講演後にパネ

ルディスカッションを行い、講演者をパネラーとして、会場の方々と共に議論を深めてまいります。奮ってのご参加をお願いします。

テーマおよび講演者：

1. 「防災気象情報のねらいと展開
～情報を作成発信する気象庁の立場から～」
気象庁予報部業務課気象防災情報調整官
弟子丸 卓也氏
2. 「テレビ報道と防災気象情報」

日本テレビ報道局報道番組部 谷原 和憲氏

3. 「防災気象情報を受け取る市町村の現場では」
宇部市役所防災危機管理課 弘中 秀治氏
4. 「防災情報が有効に活かされるために
～求められる住民の内発的な自助意識～」
群馬大学教授 片田 敏孝氏

問い合わせ先：浅野 準一（気象大学校）

TEL：04-7144-7185（内線 222）

E-mail: jasano@mc-jma.go.jp

大気科学の将来展望と若手研究者問題に関する第2回検討会のお知らせ

日時：2010年5月25日（火）（大会第3日） 17:30～20:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター セミナー
ホール417（センター棟 4F）（大会A会場）

趣旨：昨年に引き続き、日本気象学会と日本学術会議地球惑星科学委員会 IAMAS 小委員会は共同で、近年深刻さを増している若手研究者に関する問題と将来展望を議論する会合を、春季大会に合わせて上記の通り開催します。第2回目に当たる今回のテーマは、博士号取得者の民間企業への就職です。会合では、複数の企業の方々から、気象・環境関係も含めどんな内容の仕事があり、博士号取得者にどのような人材や能力を求めているのかについて具体的に紹介して頂きます。これに関連して、就職コンサルタント

トの方からも博士号取得者の就職についてコメントして頂く他、人材情報提供を手掛けている科学技術振興機構の方からもその活動についてご紹介頂く予定です。これらの講演を受けて、民間企業で博士号取得者が積極的にその能力を発揮できる機会を増やすには、個人・企業・学会・大学において、どのような取組みや意識改革が求められるかについて、参加者全員で議論したいと考えています。なお、会合のプログラムについては、大会前までに気象学会ホームページに掲載します。若手研究者や大学院生の皆さんの積極的な参加を期待しています。

コンビナー：中島映至，中村 尚，青木周司，河村公隆，
里村雄彦，中根英昭，村上正隆，遊馬芳雄

研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

第33回メソ気象研究会

日時：2010年5月22日（土）（大会前日）13:30～17:00

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

テーマ：「冬季のメソ擾乱とそれにとまなうストーム」

コンビナー：大東忠保（名大地球水循環）

内容：冬季、総観規模低気圧の影響を受けた場の中で発生するメソ擾乱は、雪と風を集中させストームを引き起こします。1963年～1967年の気象庁北陸豪雪特別観測によって本格的に始められた日本における冬季のメソ擾乱の研究は、衛星やレーダーなどの観測測器の充実と、数値モデルの高精度化によって進展し、多くの現象の発見と理解の体系化が行われてきました。ここ10年ほどの大規模かつ高解像度のシミュレーションからは、古くから存在が知られていたポーラーロウや日本海寒帯気団収束帯に関する研究で、その構造や形成メカニズムの理解に大きな進展がありました。一方、近年の詳細観測からは新たなメソ擾乱が認識され、数値シミュレーションによる研究と合わせて形成メカニズムが理解されつつあります。今回のメソ気象研究会ではこれら冬季のメソ擾乱とそれにとまなうストームについて、観測・シミュレーションの両方から最新の話題をとりあげます。時間を十分にとってまとまった話をしていただく予定ですので、多くの方々に参加いただき理解を深めていただくとともに、活発な議論をお願いいたします。

プログラム：

1. 趣旨説明

2. 「日本海寒帯気団収束帯に伴う直交型筋状雲の構造と発生機構」 永戸久喜（気象研）
3. 「オホーツク海沿岸帯状雲の成因と構造」 藤吉康志（北大低温研）
4. 「北陸海岸部に沿って停滞する線状降雪帯の形成機構」 岡本宏樹（名大地球水循環）
5. 「ポーラーロウの理想化実験」 柳瀬 亘（東大大気海洋研）
6. 「日本海側で冬季に突風をもたらすじょう乱の観測」 楠 研一（気象研）
7. 「グリーンランド南端で東風中に生じるtip jetの形成メカニズム」 大東忠保（名大地球水循環）
8. 総合討論

世話人：坪木和久（名大地球水循環），加藤輝之（気象研），
小倉義光（東大大気海洋研）

連絡先：大東忠保（名大地球水循環）

E-mail：ohigashi@rain.hyarc.nagoya-u.ac.jp

注意事項：自家用車での来庁はご遠慮下さい。当日は閉庁日ですので、正面玄関（KKR東京側）のみ開いています。研究会の受付で名札を受け取り、着用して下さい。

第8回統合的陸域圏研究連絡会

日時：2010年5月23日（日）（大会第1日）18:00～20:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター
棟1F 101会議室（大会B会場）

内容：「統合的陸域圏研究連絡会」においては、陸面を中

心とする大気境界層から土壌内に渡る陸域圏を主な研究対象とし、以下の目的により活動を行っています。

- * 陸域圏における物理的、生物的諸過程の理解に向けた、広い視野に立った研究のための情報交換
- * 陸域圏を対象とした基礎的なメカニズムの理解と、他の圏との広域的・長期的相互作用システムの解明
- * 直接観測、間接観測、およびモデリングの融合
- * 空間的・時間的スケール間ギャップの問題の解決
- * 正確な現状の認識と、実質的に意味のある手法の開発
- * それらのための研究協力関係の構築

今回は、衛星リモートセンシングデータ利用による陸域植生情報抽出に関する研究に焦点をあて、3名の招待講演者による講演を中心に研究会を開催いたします。

講演者および講演題目（敬称略）：

曾山典子（天理大学）

「全球土地被覆分類システム構築上の問題点」

福江潔也（東海大学）

「GCOM-C1 土地被覆プロダクトを想定した分類アルゴリズムの開発」

古海 忍（奈良佐保短期大学）

「植生指標への意味づけと多波長データを用いた植生指標セットの提案に向けて」

世話人：馬淵和雄（気象研）、大谷義一（森林総研）、奈佐原顕郎（筑波大）、伊藤昭彦（国環研）、佐藤 永（名古屋大）、大石龍太（CCSR）

代表連絡先：馬淵和雄（気象研）

TEL：029-853-8722, FAX：029-853-8728

E-mail：kmauchi@mri-jma.go.jp

気象教育懇談会

日時：2010年5月23日（日）（大会第1日）17:30～2時間程度

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟1F 102会議室（大会C会場）

テーマ：「地球温暖化をどう教えるか」

内容：いまや「地球温暖化」「リサイクル」「二酸化炭素（CO₂）」といった言葉は、多くの子どもたちにとってよく聞く言葉となっており、教師だけでなく気象キャスターや研究者たちによる出前授業なども活発に行われています。その一方で、気候変動や地球温暖化問題における不確実性や未解明な点をどのように伝えたいのかという問題が依然としてありますし、また、現状の教育が原因であるかどうかは不明ですが、子どもたちが将来へ過剰な不安感を抱いているとの指摘もあります。今回の気象教育懇談会では、専門家と高校生の双方を対象としたアンケート結果など、最新の活動状況を報告します。また、参加者全体で、現状の地球温暖化教育における悩み、問題点などについて情報共有を図るとともに、実際に行われている具体的な教案などについて意見交換を行いたいと考えています。教育関係者に限らず、地球温暖化に関わる多くの研究者のご参加をお待ちしております。

世話人：石原幸司（気象研）、宮下 敦（成蹊高校）、畠山 正恒（聖光学院）

問い合わせ先：石原幸司（気象研究所気候研究部）

TEL：029-852-9046

E-mail：kishihar@mri-jma.go.jp

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2010年5月25日（火）（大会第3日）17:15～2時間程度

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟1F 101会議室（大会B会場）

話題：

1. 新しい南極観測体制と第Ⅷ期重点観測計画

「南極域から探る地球温暖化」

山内 恭（国立極地研究所）

コメント：「しらせの観測設備概要」

橋田 元（国立極地研究所）

2. 「冬季東アジアモンスーンの変動要因を探る」

川村隆一（富山大学大学院理工学研究部）

コメント：「2009/2010の冬を振り返る」

本田明治（新潟大学自然科学）

前半は南極観測と「しらせ」に関する特集です。今期（2009/10年）、新しい南極観測船「しらせ」の南極への初航海となりました。新「しらせ」では観測隊に関連する乗船定員が増え、学校の先生が南極から授業を行うなど新しい活動が加わりました。また、今年出発する第52次観測隊からは、毎年の公募に基づく速効性のある観測・実験活動が南極域で行えるようになります。数年前からの隊員資格の緩和を含めて、これから先、南極観測に関心のある研究者がどう関われるのか、そして、今後の改善点を議論したいと思います。

後半は、2009/2010年の冬に関する講演及び自由討論を行います。2009/2010年の冬は、12月中旬から1月上旬にかけて寒く、日本海側を中心に大雪にも見舞われました。極域や熱帯などいろいろな角度からその原因を探り、「平成18年豪雪」などとの比較を通じて、大気循環や気候変動の一般的な理解を深める機会にしたいと考えています。当日、飛び入りでの話題提供も歓迎いたしますので、たくさんの方のご参加をお待ちしています。

問い合わせ先：猪上 淳（JAMSTEC）

TEL：046-867-9483, FAX：046-867-9455

E-mail：jun.inoue@jamstec.go.jp

URL：http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl_index

第5回地球観測衛星研究連絡会

日時：2010年5月25日（火）（大会第3日）17:30～19:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟1F 102会議室（大会C会場）

テーマ：「衛星リモートセンシングにおける地上/航空機観測の役割」

内容：第5回目の地球観測衛星研究連絡会では、衛星リモートセンシングにおける必須研究項目である地上及び航空機検証観測に注目した議論を行います。検証観測の実際やリモートセンシングへの応用手法について自由に議論を行い、衛星解析と地上観測の相互理解を深めることが主な目的です。グローバルな衛星観測とシャープな地上観測をどのように組み合わせればよいのか、という点に議論が進展していくことを期待しています。今回は地上と航空機観測で活躍されている研究者の方々を話題提供者にお迎えいたしました。どなたでも自由に議論に参加していただけますので、是非ご参集下さい。

話題提供者（予定）：

千葉大学環境リモートセンシング研究センター 高村
民雄

「SKYNET雲・エアロソル観測ネットワークと衛星計
測検証」

気象研究所 内山明博

「航空機観測による検証観測」

情報通信研究機構 大野裕一

「衛星搭載雲・降水レーダの地上検証について」

国立環境研究所 内野 修

「GOSAT検証戦略と初期検証結果」

世話人：早坂忠裕（東北大）、中島 孝（東海大）、高橋暢
宏（NICT）、日暮明子（NIES）、塩谷雅人（京大）

連絡先：中島 孝（東海大学情報技術センター）

TEL:03-3467-2211(内線363)

E-mail:nkjm@yoyogi.ycc.u-tokai.ac.jp

気象学会と気象庁との連携強化に関するフォー ラムのお知らせ

日時：2010年5月26日（水）（大会第4日） 15:00～17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター
棟3F 309会議室（大会A会場）

主催：気象研究コンソーシアム（気象学会、気象庁）

趣旨：数値モデルは気象庁の気象予報サービスを支える根
幹であるとともに、気候、海洋、環境分野の研究・開発
も支える基盤技術となっています。天気予報・防災はも

とより環境や産業分野での利用においても正確・詳細な
気象情報が求められるなか、高度にシステム化した数値
モデル技術を更に発展させていくためには、気象学会を
通じて大学や研究機関と気象庁との連携を深めること
がこれまで以上に重要となっています。気象庁で現業利
用されている数値モデルやデータは、大学や研究機関に
においても気象庁との共同研究によりこれまでも連携し
利用されてきているところですが、基礎研究から応用分
野にわたる幅広い分野でのより実践的な研究・教育の推
進にはさらなる連携の強化が望まれます。

本フォーラムでは、気象学会を通して大学・研究機関
と気象庁とがより密接なまた幅広い連携を進めていく
ため、現状と課題についての話題提供を受けて議論を行
いたいと考えています。

プログラム：

1. 気象学会と気象庁の連携の現状
2. 気象庁現業数値予報モデル（全球モデル、メソモデ
ル、データ同化）開発の現状と課題
3. 大学での実践的研究・教育における現状と課題
4. 気象学会と気象庁との更なる連携強化に向けた総合
討論

問い合わせ先：気象庁総務部企画課 里田弘志

TEL：03-3212-8341（内線 2227）

E-mail：satoda@met.kishou.go.jp

大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、次
の施設を紹介致します。

・セルリアンタワーポピンズキッズルーム

〒150-0031 東京都 渋谷区桜ヶ丘 26-1

セルリアンタワー東急ホテル 3F

TEL: 03-5728-1377, FAX: 03-5728-1377

URL: <http://www.poppins.co.jp/room/detail/70>

利用可能時間： 08:00～23:00

アクセス：渋谷駅から徒歩約 5 分

利用料金は 10:00～20:00 の時間帯は 2,625 円/1 時間、それ
以外の時間帯は 3,150 円/1 時間です。（2 名以上の兄弟・姉
妹の場合割引あり）

大会実行委員会では、利用料金の一部を補助する予定で
す。上記の施設、及びそれ以外の保育施設の利用等、保育
支援をご希望される方は、2010 年 4 月 23 日（金）までに
下記担当者までご連絡ください。また、それ以外のお問い
合わせにもできる限り対応致しますので、ご連絡をお願い
します。

連絡先：平井雅之（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報
課）

E-mail：m-hirai@met.kishou.go.jp

TEL：03-3212-8341（内線 4834）

秋季大会の予告

2010年度秋季大会は、2010年10月27日（水）～29日（金）に京都テルサで開催される予定です。